

ワークショップ実践例

「自分の良さを見つけよう」

～「役割」にしばられない人間関係づくり～

生涯学習らぼ RELearning(リ・ラーニング)代表 秦野玲子

1. 参加型学習とはどういうもの？

ワークショップを取り入れた参加型学習は、一斉講義形式だけの学習に対して「学習者が自ら考え、学習支援者とともに学習活動に参加して作っていく学習方法」として知られ始め、国際理解教育や人権の学習女性問題学習などに用いられています。

ここでは「参加型学習」を次のように整理した上で実践例を紹介したいと思います。

- ① 学習者が言葉だけでなく五感を使いながら主体的にまた相互に学びあう方法
- ② 学習者が積極的に参加できる学習の進め方
- ③ 学習者の社会参画につながる考え方や、社会参画の方法・技術を体験しながら学ぶことを目的にした学習活動

私自身はこの中でも③の社会参画の過程を学ぶ学習、ということ大切にしたいと考えています。

また、参加型学習は講義形式の学習を否定するものではなく、むしろ講義の内容を深め、より効果的に学ぶためにいくつかの学習方法を組み合わせたもの、というように捉えると良いと思います。手法についてはたくさんの教材が出版されていますが、手法よりもむしろ「その手法をどのように使って学習の目的を果たすのか」ということの方が問われていると思います。

ワークショップは教える人と教わる人という関係で学ぶのではなく、一緒に学ぶ他の学習者の意見や発想から「気づき」「相互に学びあい」「学習のふりかえりを共有する」という学習過程を大切にするものなので、グループでの活動が中心になりますが、個人で考えたり作業をしたりする時間と組み合わせることで、自ら納得し行動につながる学習活動としてより効果があがります。

2. ワークショップの実践例

昨年12月に、私が学習支援者を務めた神奈川県平塚市男女共同参画推進室担当の講座を紹介して、ワークショップの進め方や注意点を考えてみたいと思います。

この講座は市民企画実行委員会「宙(そら)」と平塚市の南ブロック6公民館と共催で開催したもので、ジェンダーという言葉在前面に出さずに学習の中で男女共同参画やジェンダーの視点に気づくことができるように進めたいという依頼でした。

自分や周りを「役割」でしばらないことや男女ともに、学びをとおしたまちづくりを考えていくというテーマでの2回連続の講座。参加者は30歳代から70歳代の男女40名。

女性問題は日常や意識の中に深く根をおろしているの、暮らしや行動を変えていくこ

との必要性に自ら気づくことが大切な課題ですから、講義だけをするのではなくワークショップを中心とした学習を進めることにしました。紙面の都合上、2回の講座の展開を一部まとめた紹介になります。

展開(1)アイスブレイキング

「ice（氷）を break（砕く）、という和製英語。参加者の心をとほぐして、共同学習を進めやすくしたり、学習内容に意識や考えを導入していく要素としての役割をもつこともあります。

初日にはジャンケンでより多くの人に勝った後、あいこになれば自己紹介できるゲームを導入に使用しました。「勝つことがすべて」という価値観の逆転と、声を出したり動くことで雰囲気や和らげることができます。二日目のアイスブレイキングでは講義への導入も兼ね、シールによる色分けで無意識に不必要な区別をし、それが差別につながってしまう体験をしました。

グループに分かれた後は、好きな事・得意な事を書いた名札をつけての自己紹介。これは自分のいい所を見つめなおすことで自己尊厳感情を持ってもらうこと、前もって紹介することを名札に書いておくことで、順に自己紹介していく時にありがちな緊張感をなくす、という意味もあります。

次に、グループでの話し合いのウォーミングアップとして、ホワイトボードに描いた図形が何に見えるかをグループ内で自由に出し合い、発言することに気後れする人を減らし、価値観も多様にあることに気づいてもらうようにしました。

展開(2)グループワーク「見方を変えれば」

紙に無記名で自分のマイナス面を3つ書いてもらったものを集め、ホワイトボードの半分には線をひき左側にそのいくつかを書き出します。グループでそれを肯定的な表現に変えるようグループで話し合った後発表してもらい、右側に書き出します。短所は見方を変えれば長所になり、相手を肯定的に捉えられるという事に気づいてもらいます。また、グループで話し合うことにより様々な見方のあることを体験します。

展開(3) グループワーク「人間関係をよりよくする五箇条づくり」

これまでの学習を活かし、グループで意見を出しながら人間関係をよくしていくための五箇条づくりをして発表しあいます。

展開(4) 講義「学びが創る素敵なまち」

ジェンダーの視点を持ち、それにとらわれない生き方をしていくことが、個人の可能性を引き出すこと。未来を生きる子どもたちの可能性の芽を摘まないことにつながるということを手短かな講義で伝えます。

コミュニケーションや、無意識に差別が生まれる体験をした後なので、要点のみの講義で理解してもらえます。

展開(5) 学習のふりかえり・気づきの共有

ワークショップでは、学習者相互の気づきや意見、考えをふりかえり共有（シェアリング）することが大切です。ふりかえりがないと、作業に追われて何を学んだのかわからないままになったり、学んだことを行動に結び付けるという目的につながらなくなった

りしてしまいます。

この事例では、一つひとつのワークの後にもふりかえりを入れただけでなく、ワークショップ全体の流れをふりかえりながら全体をとおしたねらいを再確認し、各自が「学びによって作る自分の未来予想図」を記入できるシートを配り、日常に戻ってからも学習をふりかえる時間をもてるようにすることで、今後の学習支援にもつながる工夫をしてみました。

最後には「ふりかえりカード」に記入し、学習者それぞれが講座で学んだことを日常の行動につなげていくことを改めて考える機会を作りました。

3.ワークショップの課題

ワークショップを一人の学習支援者(ファシリテーター)で有効に展開するためには20人程度で3時間位が理想ですが、時間や人数の制約は場合によって色々です。集まった学習者の年代、日頃の活動によっては、用意したワークショップをそのまま使えないこともあります。参加者によっては、ワークショップそのものに抵抗感を持ちグループ活動が成り立たなくなるような発言をする方もいます。最初は参考書の手法を真似るところから入っても、手法に頼りすぎたり無理強いするのではなく、学習課題とねらいをしっかりと心にとめたうえで、臨機応変に対処できることが大切です。学習課題や参加者に応じて、ワークシートや手法をアレンジすることも必要でしょう。そして学習者相互の学びをふりかえり共有する時間をどのように持つのか工夫できることが、何よりワークショップを進める支援者にとっての課題であると思っています。

[実践にあたっての参考資料]

「参加型学習のすすめかた」 ぎょうせい

「ステキ体験のすすめ」 名古屋市教育委員会

「わたし出会い発見」大阪府同和教育研究協議会編